



Canon
AL-1

QF

Quick Focus

J

日本語版

使用説明書



各部名称



各部名称はP.58にもありますので、開いてご覧ください。

ご挨拶

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。
キヤノンAL-1は高度な電子技術を背景として誕生したAE(Automatic Exposure・自動露出)およびマニュアル(手動)兼用の高級一眼レフカメラですが、同時に迅速なピント合わせを可能とするための、クイックフォーカス機構(QF)を内蔵したカメラです。従ってベテラン

の方はもとより初めてカメラを手にした方でも簡単にお使いいただけます。しかし、優れた機能、操作性も正しい使い方がなければ、その性能を十分に発揮できません。ご使用にあたってはカメラをお手にとって、よく使用説明書をお読みいただき、ご理解くださるようお願いいたします。

基本撮影操作編…………… 5～23

各部機構と応用編

- 1. 電池について…………… 26
- 2. 露出：シャッターと絞りのはたらき…………… 28
- 3. 絞りについて…………… 30
- 4. シャッタースピードについて…………… 32
- 5. ファインダー情報…………… 34
- クイックフォーカスの苦手な被写体と測距方法…………… 36
- クイックフォーカスの使用できない被写体…………… 37

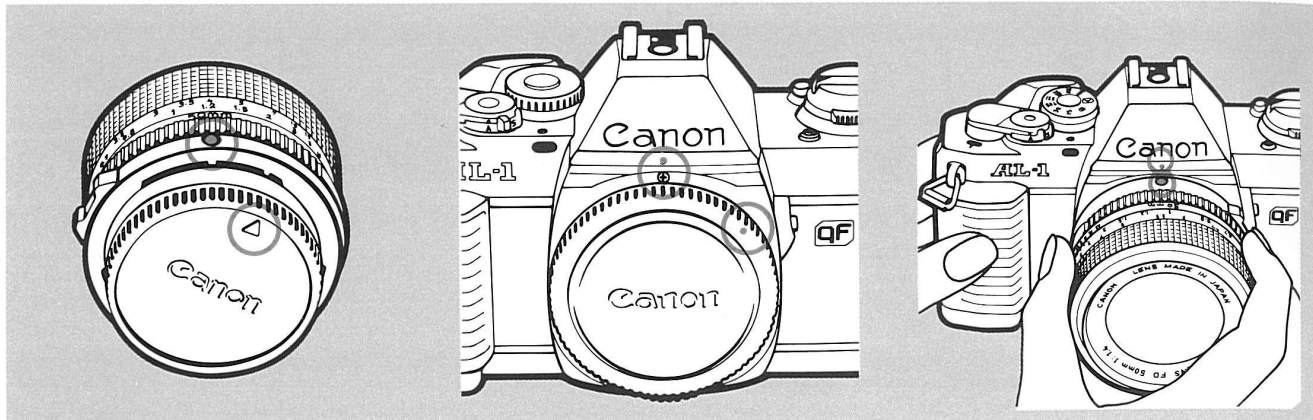
- 6. 被写界深度…………… 39
- 7. 露出の補正をしたいとき…………… 40
- 8. マニュアル撮影…………… 42
- 9. 絞り込み撮影…………… 43
- 10. フィルム位置マーク…………… 44
- 11. 長時間露出とB(バルブ)…………… 45
- 12. 赤外写真と赤外マーク…………… 46
- 13. 主な付属品…………… 48
- 14. 手入れと保管…………… 52
- 質問箱…………… 54
- 主要性能一覧表…………… 57



基本撮影操作編

自動露出撮影のしかたをやさしく解説してありますので、この章をお読みいただければ初めてカメラを使う方でも、日常の撮影は十分にお楽しみいただけます。

1. レンズを取り付けます



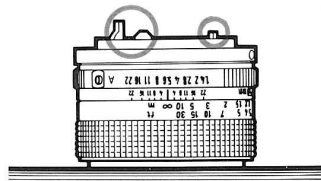
底蓋を回してはずします。

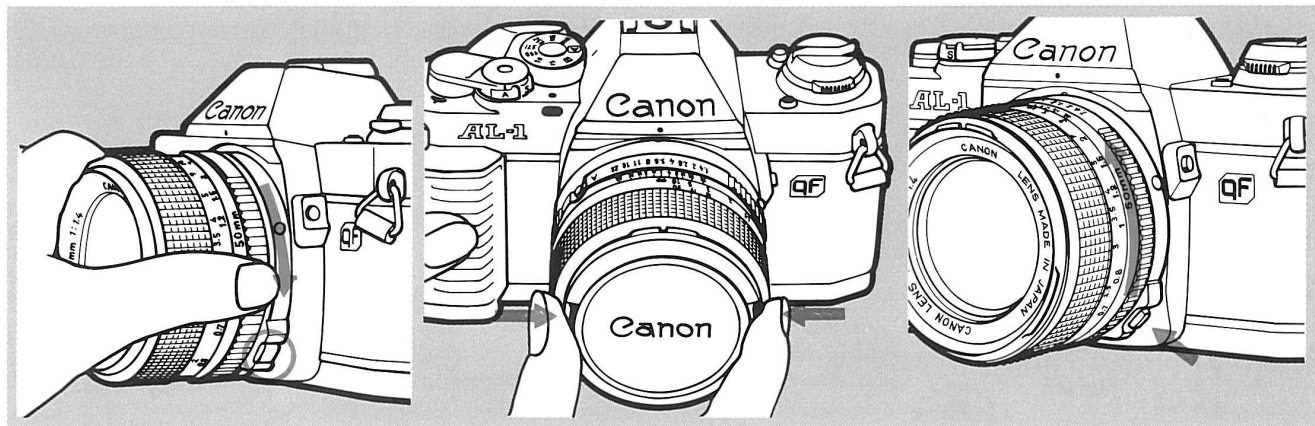
取り付けるときは△印と赤印部を合わせ、底蓋を時計方向に回します。

ボディキャップを回してはずします。取り付けるときは赤マークと赤マークを合わせて回します。

レンズを取り付けます。
(1)カメラとレンズの赤マークを合わせて押し付けます。

FDレンズは各種の信号ピンを内蔵していますので、レンズを取りはずしたときはこれらの信号ピンやレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上向きにして置いてください。



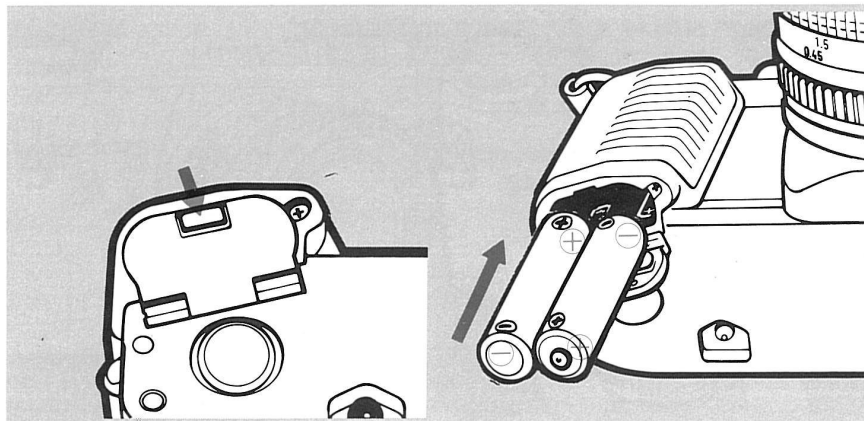


(2)レンズ全体を完全に止まるまで回します。完全に取り付くとカチッという取り付け音と同時に、○印のレンズ取りはずしボタンが飛び出ます。

キャップをはずします。キャップ両側の爪を押すとはずれます。

レンズをはずすときは、レンズ取りはずしボタンを押しながら矢印方向一杯に回します。

2. 電池を入れます

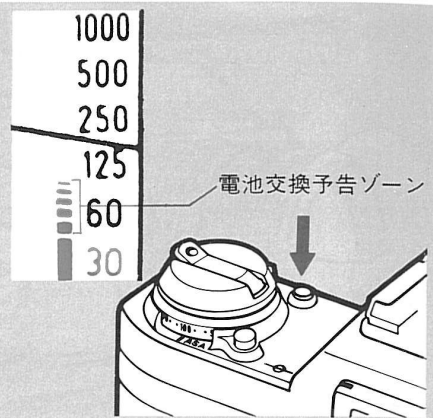


電池室蓋開放爪を押すと、電池室蓋が開きます。

電池を入れます。
電池室の図に従い⊕⊖の向きを間違えないようにして入れてください。向きを間違えるとカメラは作動しません。

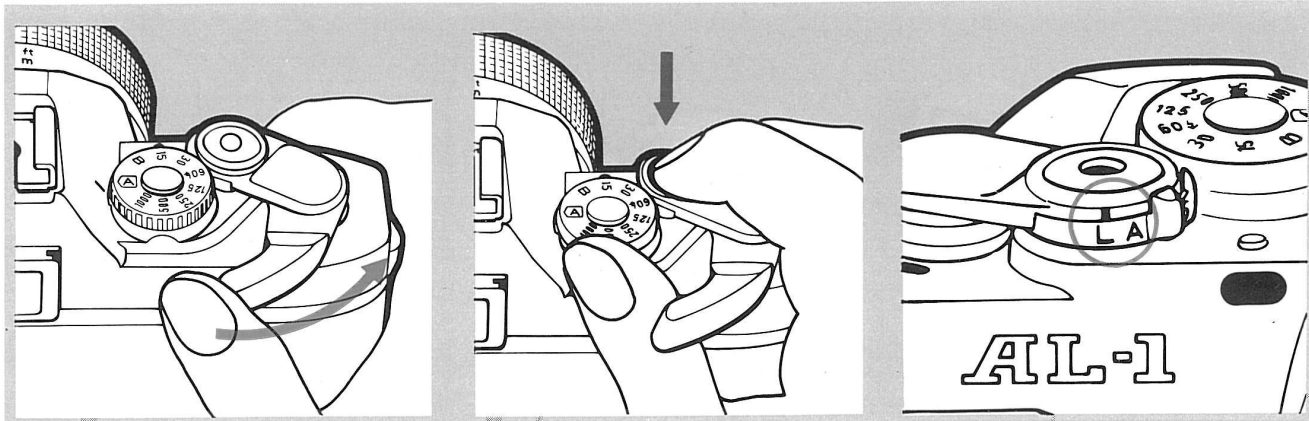
電池の詳細および寒冷地での取り扱いなどについてはP.26～27をご覧ください。

3. 電池性能を調べます



電池チェックボタンを押します。
電池容量が十分にある場合は、メーター指針が電池交換予告ゾーンより上に振れます。交換予告ゾーンを指したときは、予備電池をご用意ください。なお、メーター指針が電池交換予告ゾーンの下に赤マークにかかったならば、電池を交換してください。

★フィルムを入れる前にカメラに慣れてください



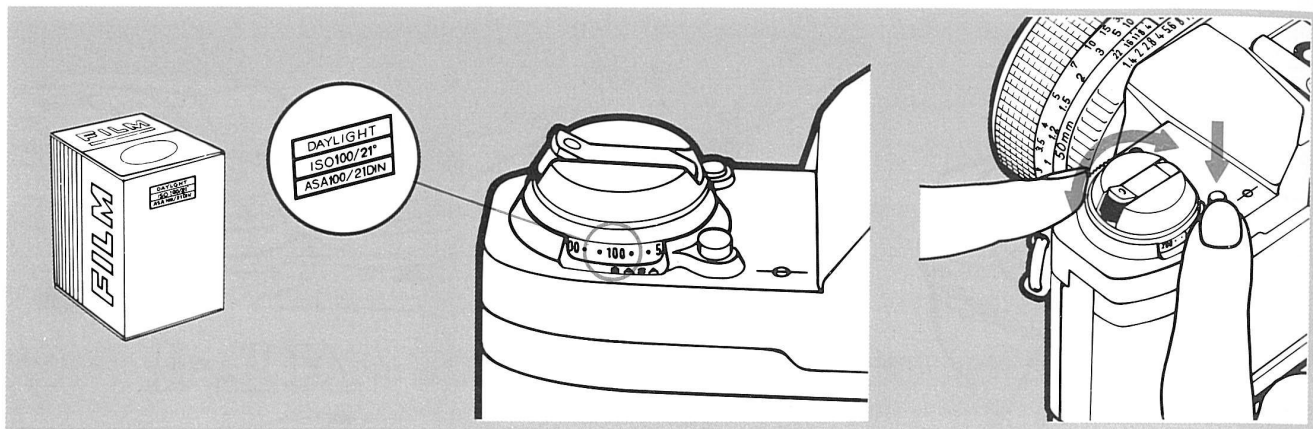
(1)フィルム巻き上げレバーを引き出し、指をかけやすい状態にします。レバーを止まるまで回します。小刻み巻き上げもできます。

(2)シャッターボタンを押します。指をのせた状態から静かに押ししてください。繰り返し練習してカメラに慣れてください。

シャッターボタンは巻き上げレバーを完全に回さないと押せません。またシャッターボタンロックレバーがLになっていると押せません。

(シャッターボタンロックレバー)
カメラを使用しないときは、不用意な電池消耗や無駄写しを防ぐため、シャッターボタンロックレバーをLにしてください。なお、通常撮影時はA、セルフタイマー撮影時はSにセットします。

4. フィルム感度を合わせます



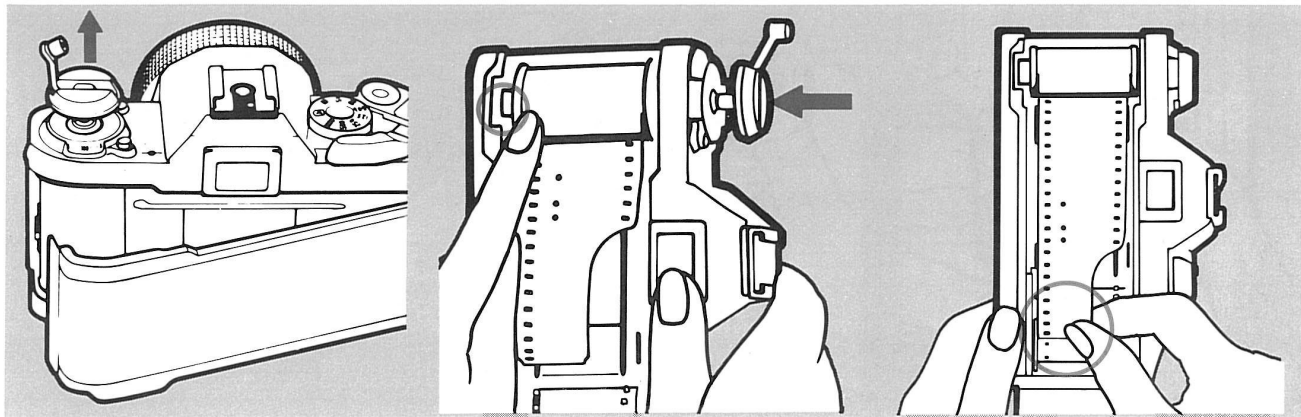
(1) フィルムの箱に書いてある感度数字 (ASA) を ASA 感度表示窓に合わせます。

(2) セットするときは ASA 感度ロック解除ボタンを押しながら、ASA 感度切り換えレバーを回します。

感度数字は次のようになります。中間の点は () 内の感度数字になります。

(32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640) (1000)(1250)
ASA 25 • • 50 • • 100 • • 200 • • 400 • • 800 • • 1600

5. フィルムを入れます

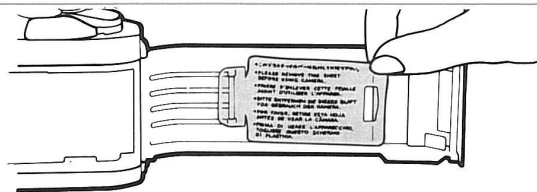


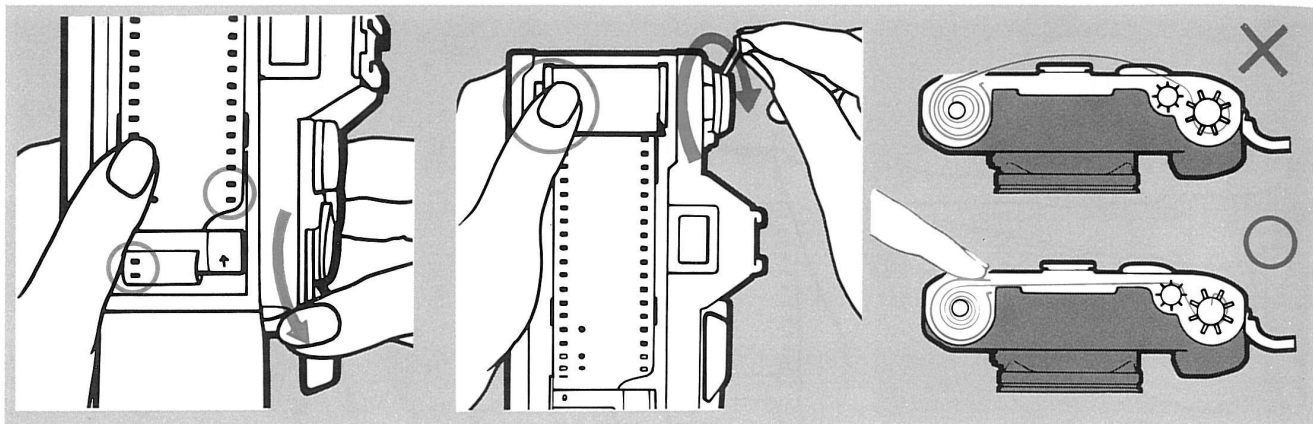
(1)巻き戻しクランクを強く引っ張って裏蓋を開けます。

(2)フィルムを入れ、巻き戻しクランクを押し戻します。戻らないときはクランクを軽く左右に回してください。

(3)フィルム先端を巻き取り軸の溝に十分に差し込んでください。

お買い求め後、初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れる前に図のように裏蓋の内側についている、プラスチックカバーをはずして捨ててください。

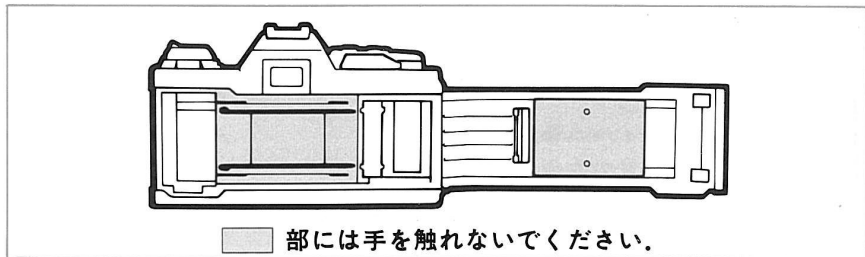


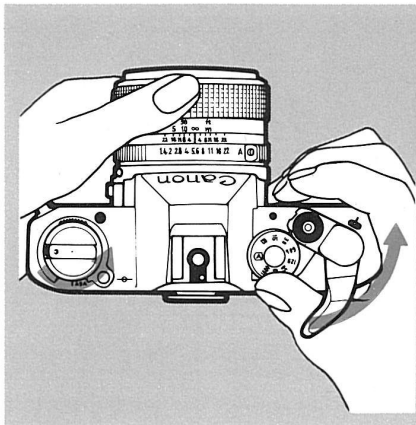


(4)巻き上げレバーをゆっくりと回し、巻き取り軸にフィルムを1回巻き付けます。
このときフィルムの穴が○印部の歯とかみ合っていることを確かめてください。

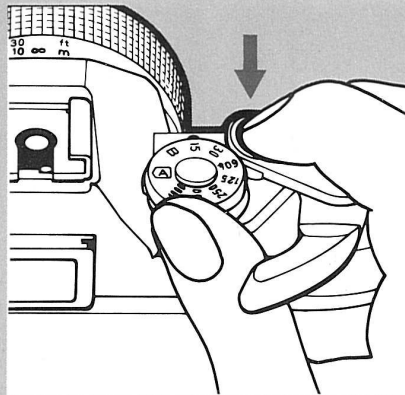
(5)フィルム出口を指で軽く押さえながら、巻き戻しクランクを矢印方向に静かに回してフィルムのたるみを取り、裏蓋を閉じます。

フィルムを入れるときは直射日光下をさけ日陰に入れてください。

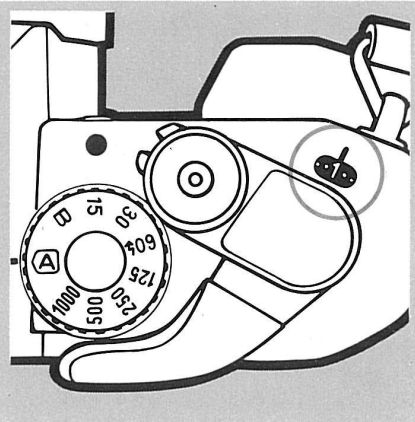




(6)巻き上げレバーを回して巻き戻しクランクが回れば、フィルムは正しく送られています。



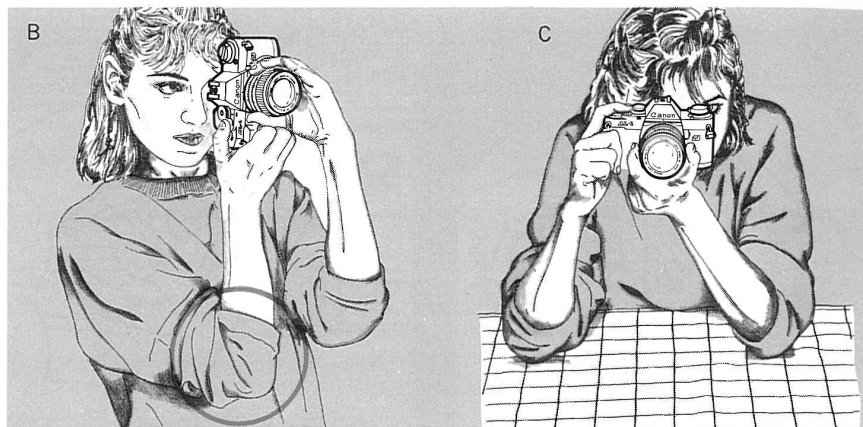
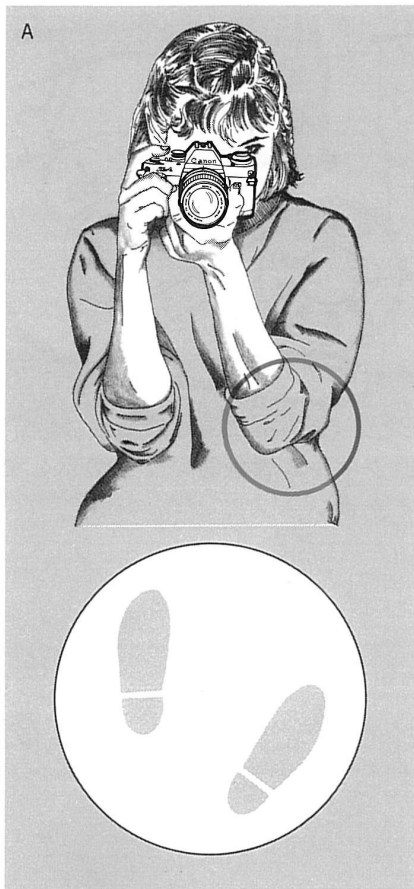
(7)フィルム巻き上げとシャッターボタンを押す操作を繰り返して、



(8)フィルム枚数計に1を表示してください。

フィルム枚数計は“S”から始まり“38”まで目盛ってあります。38以上は進みません。なお、1および市販フィルムの終わりを示す12, 20, 24, 36はオレンジ色で目盛ってあります。

6. カメラの構えかたの基本



手ぶれは大敵です。シャープな写真を撮るためには、カメラをしっかり構えてください。

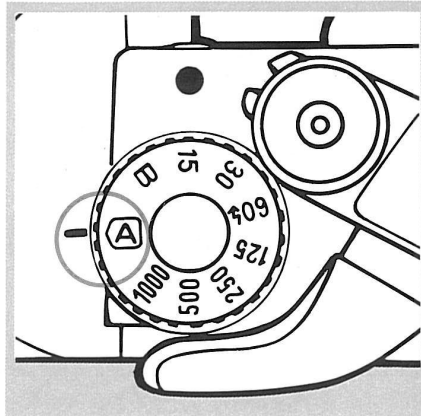
- (1)カメラは手のひらで支えるように持ちます。
- (2)カメラを支持する手のひじは体につけます。一方のひじは楽にしてください。
- (3)カメラを額につけてファインダーを覗きます。
- (4)体を斜めにして構え、足を開き

気味にします。

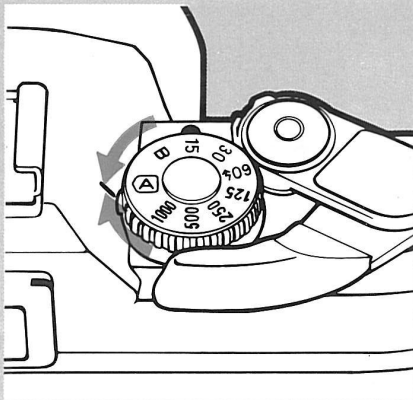
(5)縦位置で撮るときはB図のように構えます。

構え方には決まった方法はありませんので、ご自分に合った方法を見つけください。構え方の練習は鏡の前で行うと効果的です。なお、実際撮影のとき、椅子や建物等があればそれを利用して構えるのも方法です。シャッタースピードが遅くなったときは特に有効な方法です。(C図)

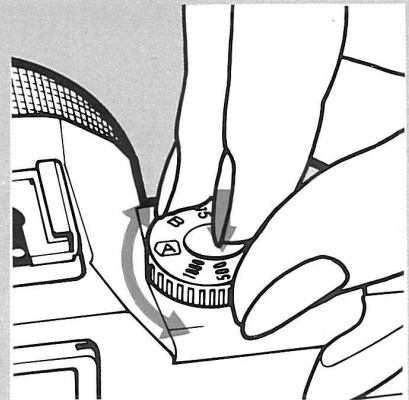
7. シャッターダイヤルを合わせます



オートマークに合わせるとAE撮影
ができます。



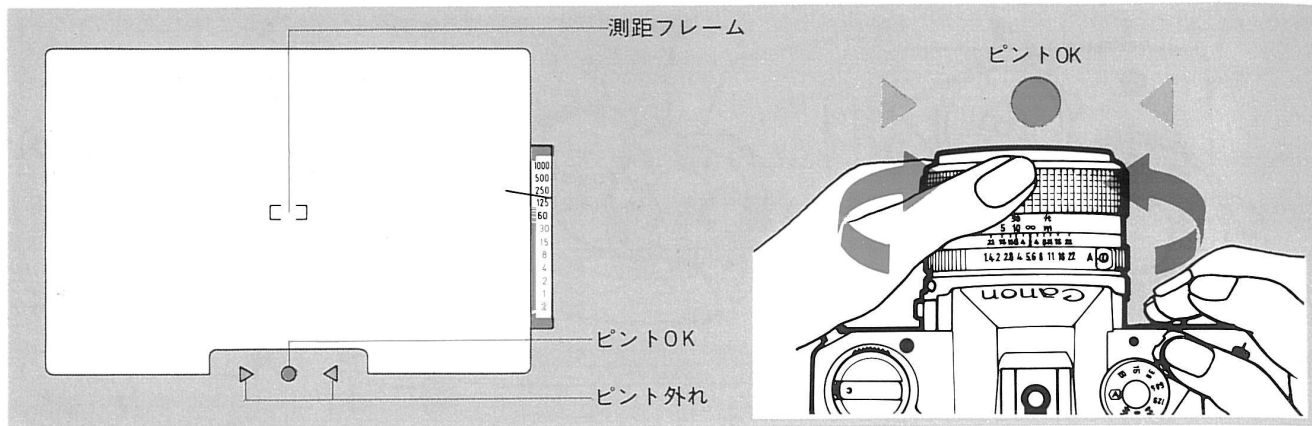
オートマークにセットするときは
回すだけです。



解除するときはオートロック解除
ボタンを押しながら、シャッター
ダイヤルを回してください。

マニュアル撮影についてはP.42を
ご覧ください。

8. ピントを合わせます



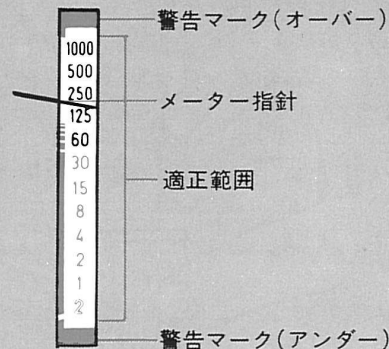
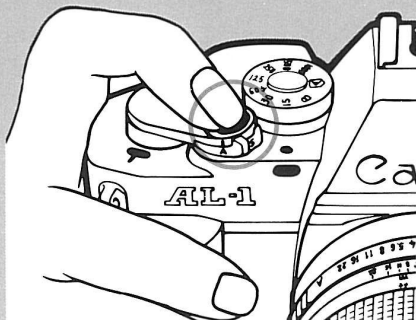
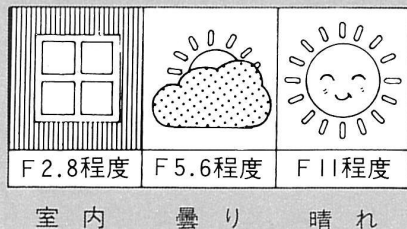
(1)ファインダーを覗きながら測距フレームを被写体に合わせ、軽くシャッターボタンを押します。ファインダー下側に測距表示が出ます。

(2)赤矢印が見えたときは矢印方向にレンズを回します。ピントが合ったときは緑色が表示されます。表示が出ないときは距離リングをどちらかに回してください。

極端にファインダー像がボケているときは、ピントが合っていないことは一目瞭然ですので、測距表示はできません。なお、測距の苦手な被写体や測距表示の詳しいことについては、P.36,37をご覧ください。またズームレンズを使用したときはズーミングをして、構図を決めた後にピント合わせをしてください。

ファインダー各部名称はP.34, 58
をご覧ください。

9. レンズの絞り目盛りをセットします



絞り目盛りは図を目安にセットしてください。

シャッターボタンを軽く押して、メーター指針位置を確かめます。メーター指針が上下の警告マークに入っていないければOKです。

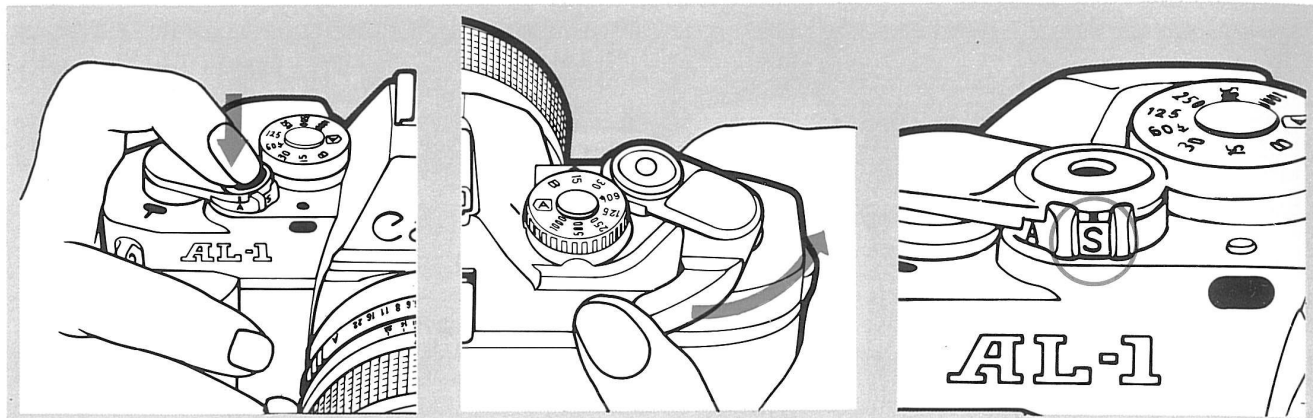
警告マークにメーター指針が入っているときは、絞りリングを回して適正範囲に振れるようにしてください。

このカメラの場合、レンズの絞りリングはAマークにセットしないでください。Aマークにセットすると良い写真は得られません。

メーター指針が電池交換ゾーン(1/30秒)以下を指すと、手ぶれを起こしやすくなりますので、フラッシュ撮影か三脚使用の撮影をしてください。特に望遠レンズでは三脚を使用してください。

10. 撮影します

セルフタイマー撮影 セルフタイマー撮影は自分自身を含めた記念写真

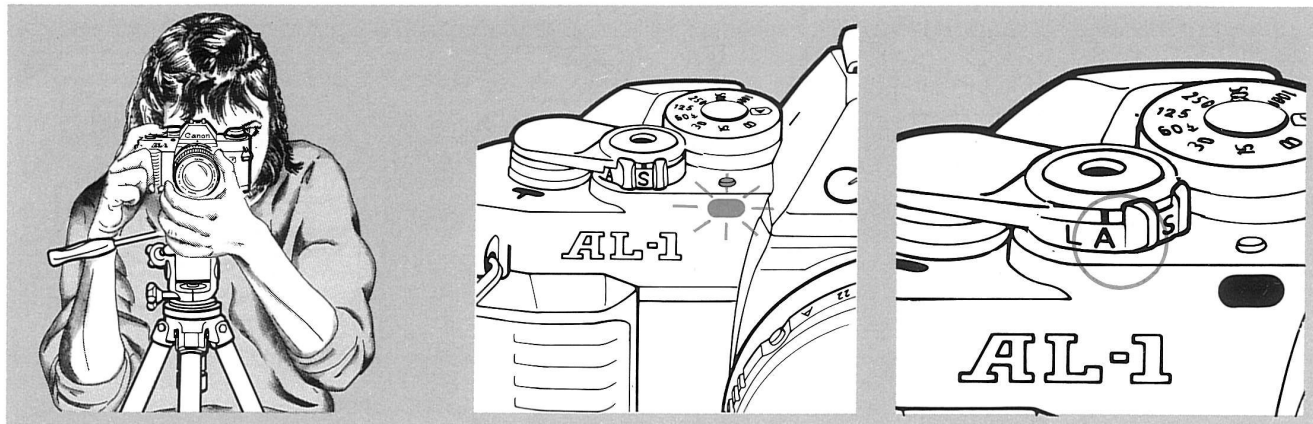


シャッターボタンを一気に押すと手ぶれが生じやすくなります。押すときは、手ぶれ防止のために指をのせた状態からそのまま静かに押します。

(1)フィルムを巻き上げ、次にピンントを合わせます。

(2)セルフタイマーレバー（シャッターボタンロックレバー）をSに合わせます。

を撮るときに使用します。



(3)シャッターボタンはファインダーを覗きながら押してください。

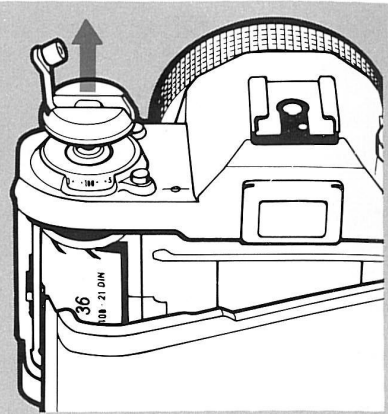
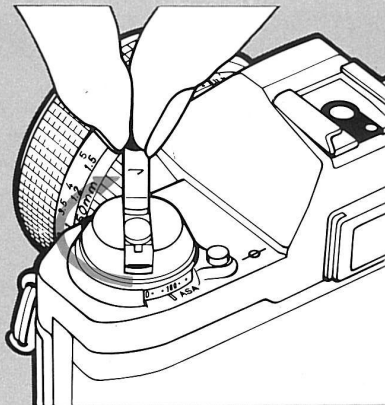
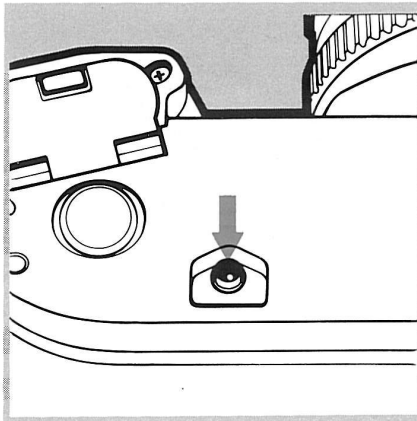
ランプが点滅し、10秒後に撮影が行われます。なお、撮影2秒前に点滅が速くなります。

(4)撮影が終わったら、セルフタイマーレバーをAに戻します。

シャッターボタンを押した瞬間に露出が決まりますので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。

セルフタイマー撮影を途中で止めたいときは、電池チェックボタンを押すか、セルフタイマーレバーをAに回してください。

11. フィルムを巻き戻します



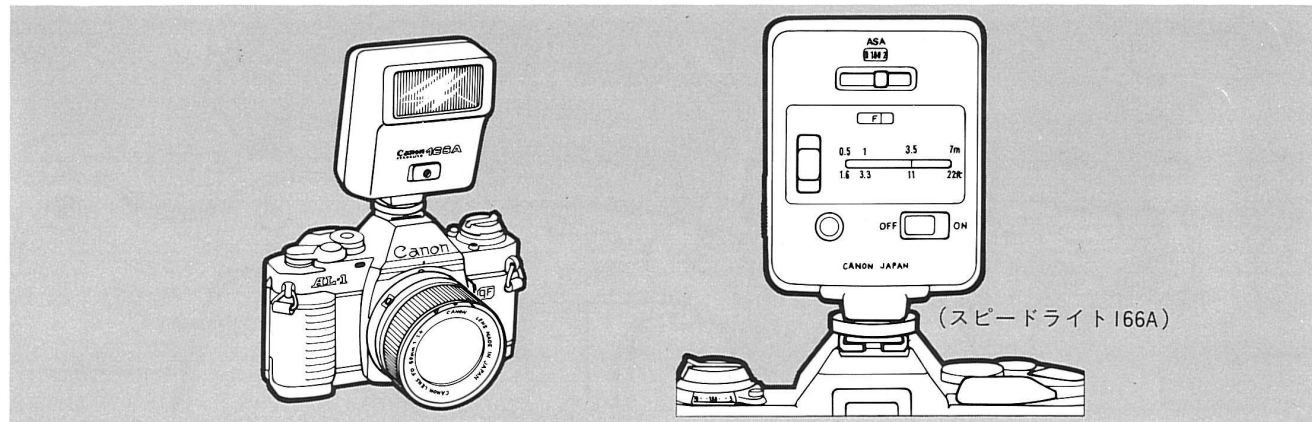
(1)巻き上げができなくなったら、フィルム枚数計でフィルムの終わりを確認し、巻き戻しボタンを押し込みます。

(2)巻き戻しクランクを矢印方向に回します。巻き戻しボタンの白点が動かなくなったら巻き戻し終了です。巻き戻されているときは巻き戻しボタンも回ります。

(3)裏蓋を開けてフィルムを取り出します。

フィルムが終わりになるとフィルム巻き上げレバーが動かなくなります。動かなくなったとき、フィルム枚数計は使用フィルムの最終枚数を表示します。

★専用ストロボを使えばフラッシュ撮影も自動です



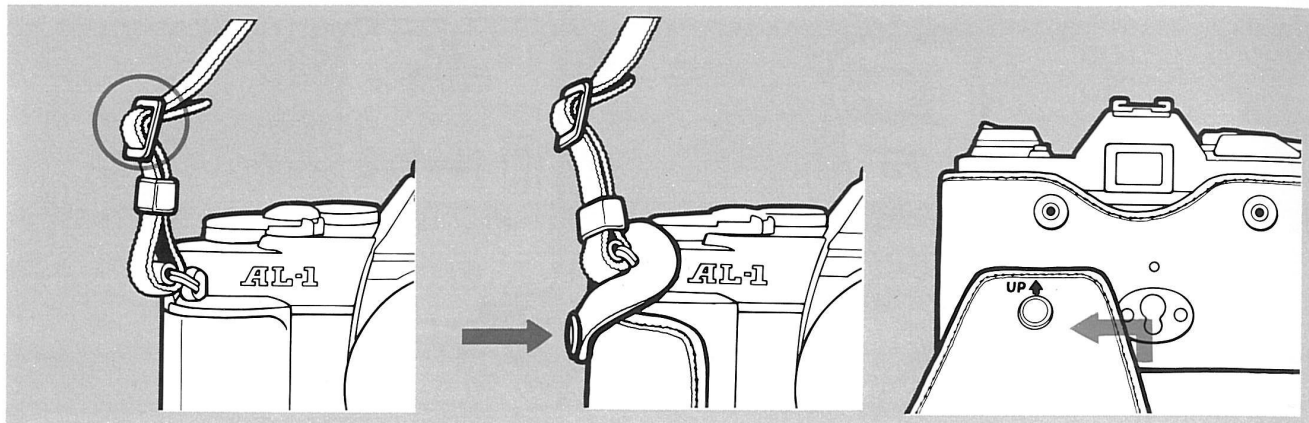
(スピードライト 166A)

ストロボ撮影もAE撮影のままでOK 一般の調光ストロボとしても使用
です。キャノンスピードライト できます。
166Aをはじめとした、専用スト
ロボを使用すればカメラのシャッ
ターダイヤルはAのままで、スト
ロボ調光撮影ができます。スト
ロボの所定絞り数値をレンズにセッ
トしパイロットランプが点灯すると、
シャッタースピードが自動的に $\frac{1}{60}$
秒に切り換わり、撮影準備完了と
なります。なお、専用ストロボは

このカメラにはキャノンの専用ス
トロボを使用されることをおすす
めします。(P.48, 49参照)特に他社の
特定カメラ専用とされているスト
ロボ(一般にホットシューに複数
の接点をもつ)およびストロボ用
付属品を使用すると、カメラが正
常機能を発揮しないことや、故障
の原因となることがありますので
ご注意ください。

詳しい使い方は専用ストロボの使
用説明書をご覧ください。

付属品の扱いについて



ストラップ(吊りひも)先端は止め金の内側になるように通してください。

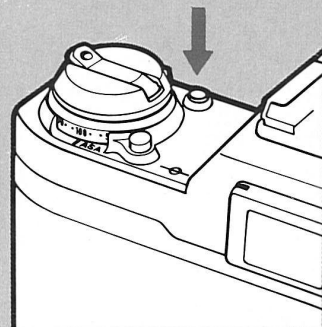
ケースは上図のように取り付けます。

ケースの上カバーをはずすときは上に押し上げてから手前に引っ張ってください。

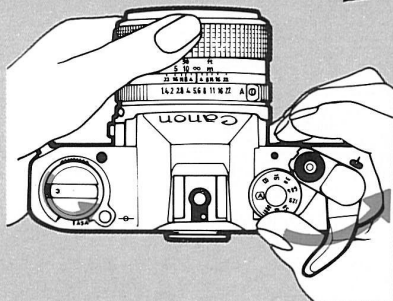
撮影前にもう一度チェックを(AE撮影)



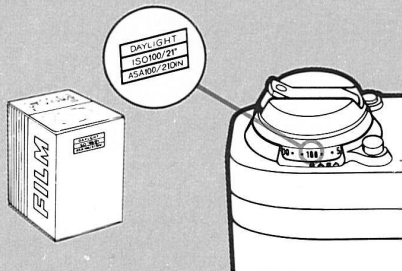
● レンズがAマークではダメ



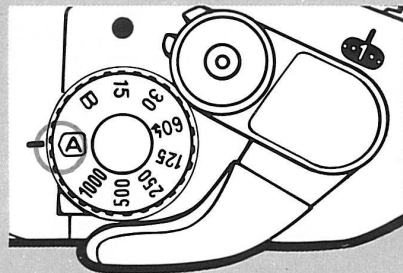
● 電池は大丈夫ですか。



● フィルムは正しく送られていますか



● フィルム感度は合っていますか



● シャッターダイヤルはAになっていますか





各部機構と応用編

引き続きお読みください。この章ではより幅広い撮影テクニックを駆使していただくための、色々な情報を盛り込んであります。

文章中の各部名称後の番号、文字はP. 3, 34, 58の名称番号と照合させてご覧ください。



1. 電池について

キャノンAL-1に組み込まれている高度な機能は、電池があってはじめて作動します。

次のような時は電池を調べてください。

- 電池を交換したとき。
- 長期間カメラを使用しなかったとき。
- ひんぱんに撮影したときや、たびたび長時間露光を行ったとき。
- シャッターが動かなくなったとき。
- 寒冷地で撮影するとき。
- その他、大切な写真を撮るときなど。

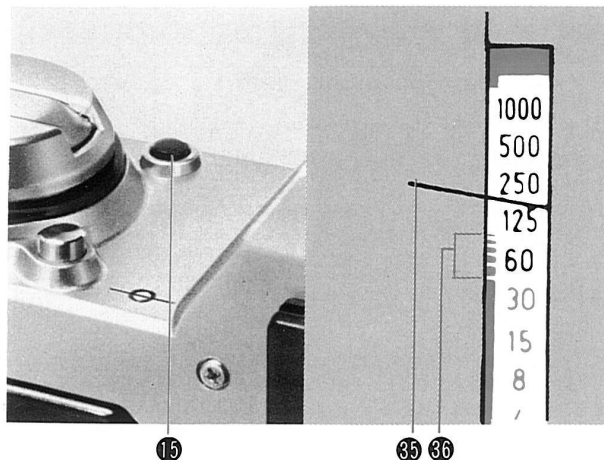
電池は、次の規格に相当するものをご使用ください。

- 単4型アルカリマンガン電池1.5V 2本
JIS LR-03(AM4)

電池寿命は通常使用で36枚撮りフィルム30本以上です。

Ni-Cd電池は使用できません。

調べ方



電池電圧を調べるときは電池チェックボタン⑮を2, 3秒間押します。

●電圧が十分あるときはメーター指針⑳が電池交換予告ゾーン㉑より上に振れます。

●電池交換予告ゾーンを指したときは交換用電池をご用意ください。なお、低温下でメーター指針が電池交換予告ゾーンに入ったときは、測距表示が出ないことがあります。

電池は正しく取り扱しましょう

- 電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋をよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐食の原因となることもあります。
- 長期間カメラを使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。入れたままにしておくと、電池漏液のためカメラの接点を損なうことがあります。
- 電池は分解したり、火の中に入れてしないでください。
- 一般に、電池は0℃以下になると性能が急激に低下します。寒冷地で撮影するときは、カメラ本体を低温から守るとともに、電圧が十分にある新品電池を使用してください。予備電池を用意して、体温で温めながら交互に使用するのもよい方法です。

低温のために性能が低下した電池は、常温に戻ると性能が回復しますので捨てないでください。

2. 露出：シャッターと絞りのはたらき

写真を撮るためにはフィルムに適切な光を当てなければなりません。この光を当てることを露出または露光といいます。フィルムに当たる光の量を調節するのはシャッターと絞りで、シャッターは光の当たる時間を、絞りは光の通る入口の大きさを調節します。常にフィルムに適切な光が当たるように、シャッターと絞りの組み合わせを変えていくわけですが、この組み合わせを変えることによって、写したいものの動きを止めたり、ぶらしたり、またメインの被写体背景をはっきり写したり、ボカしたり、思いのままに写真の表情を変えることができます。右の3枚の写真をご覧ください。鳩を撮ったものですが、シャッターと絞りの組み合わせを変えることによって、写真のイメージが大きく変わることがおわかりいただけると思います。キヤノンAL-1は、絞りを決めておくと適正露出になるように、シャッターが自動的に決まります。(AE撮影時)メーター指針が目盛りの中を指しているときは、シャッタースピードは中間の値で決まります。





3. 絞りについて



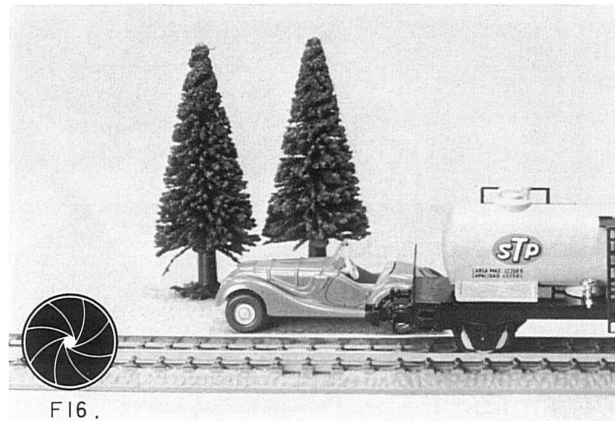
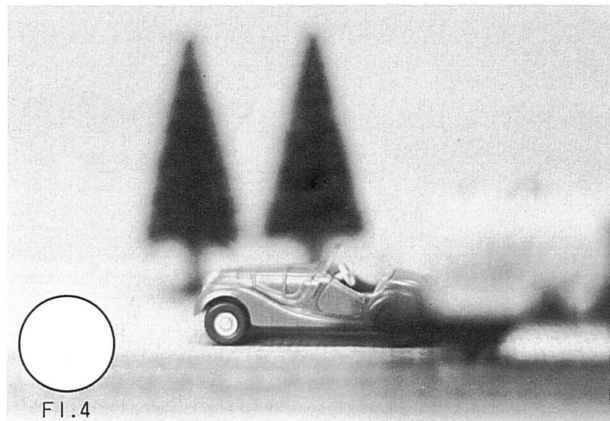
絞りリング⑬の数字は、カメラにどれだけの光を入れることができるかという尺度を表します。この尺度を絞り値といい、数字の頭にF（エフ）をつけ、F4、F5.6などと呼びます。数字が1段大きくなるごとに光量は半分に、1段小さくなるごとに光量は2倍になります。絞り目盛りごとの光量はF2を基準にして考えると、次のようになります。

F	1.2	1.4	(1.8)	2	2.8	4	5.6	8	11	16
光量比	3	2	(1¼)	1	½	¼	⅛	1/16	1/32	1/64

レンズによって開放絞り値と、次の絞り目盛りの間の光量調節が半分にならないものがあります。（例）F1.8レンズ
なお絞り目盛りは中間も使用できます。

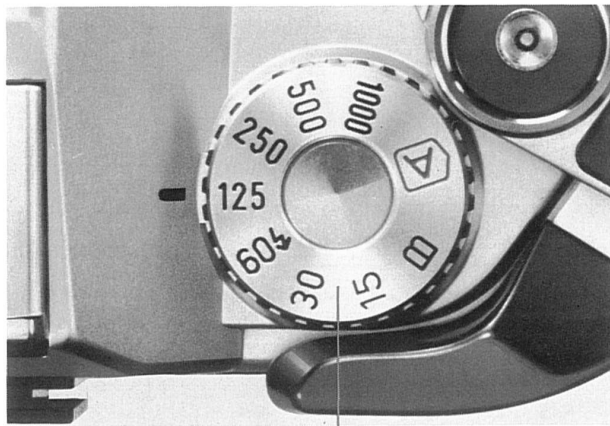
絞りはいつもファインダーを明るくするために全開になっていて、シャッターが切れた瞬間だけ絞りリングにセットされた絞り値まで閉じます。

絞りを変えたときの写真効果



絞りが変わると写真の奥行き感も違ってきます。上の作例写真は絞り値が、F1.4(左)のときとF16(右)のときのもので、F1.4の写真では背景がぼけていますが、F16の写真では近景から遠景までははっきりと写っています。このはっきりと写る範囲を被写界深度といい、絞り値が大きくなる（絞り径を閉じる）ほどその範囲は深くなります。絞りはこのようにメインの被写体の前後をぼかして、主被写体を強調することができます。

4. シャッタースピードについて



②

AE撮影のときのシャッタースピードは、ファインダー内のメーター指針③位置で読み取ることができ、セットしたレンズの絞り値に対して、自動的に決まります。なお、このときのシャッタースピードは $\frac{1}{1000}$ 秒～2秒の間で決まります。

ファインダーまたはシャッターダイヤル②の目盛り125、250などの数字は $\frac{1}{125}$ 秒、 $\frac{1}{250}$ 秒を表し、数字が1段大きくなるごとに光量が半分になるようになっています。なお、シャッターダイヤル上のBは長時間露出(P.45参照)を行うときの位置です。

シャッタースピードを変えたときの写真効果



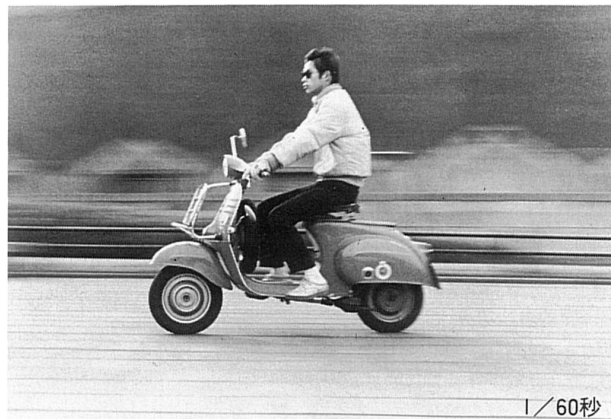
Aの写真は $\frac{1}{1000}$ 秒で撮ったものです。動きの瞬間を凍結することによって肉眼では捉えられない一瞬の動きを表現しています。

シャッターボタン⑤を押す瞬間にカメラが動くとシャープな写真は撮れません。これを手ぶれといいます。一般に、手ぶれを防ぐには $\frac{1}{\text{レンズの焦点距離}}$ 以上のシャッタースピードを選ぶとよいといわれま



Bの写真は被写体そのものの動きをぶらすことにより、流動感を表したものです。シャッタースピードは $\frac{1}{125}$ 秒です。

↗す。つまり、200mmレンズでは $\frac{1}{200}$ 秒以上になるように絞りリング⑱をセットすれば良いわけです。シャッターダイヤル目盛りでは $\frac{1}{250}$ となります。↗

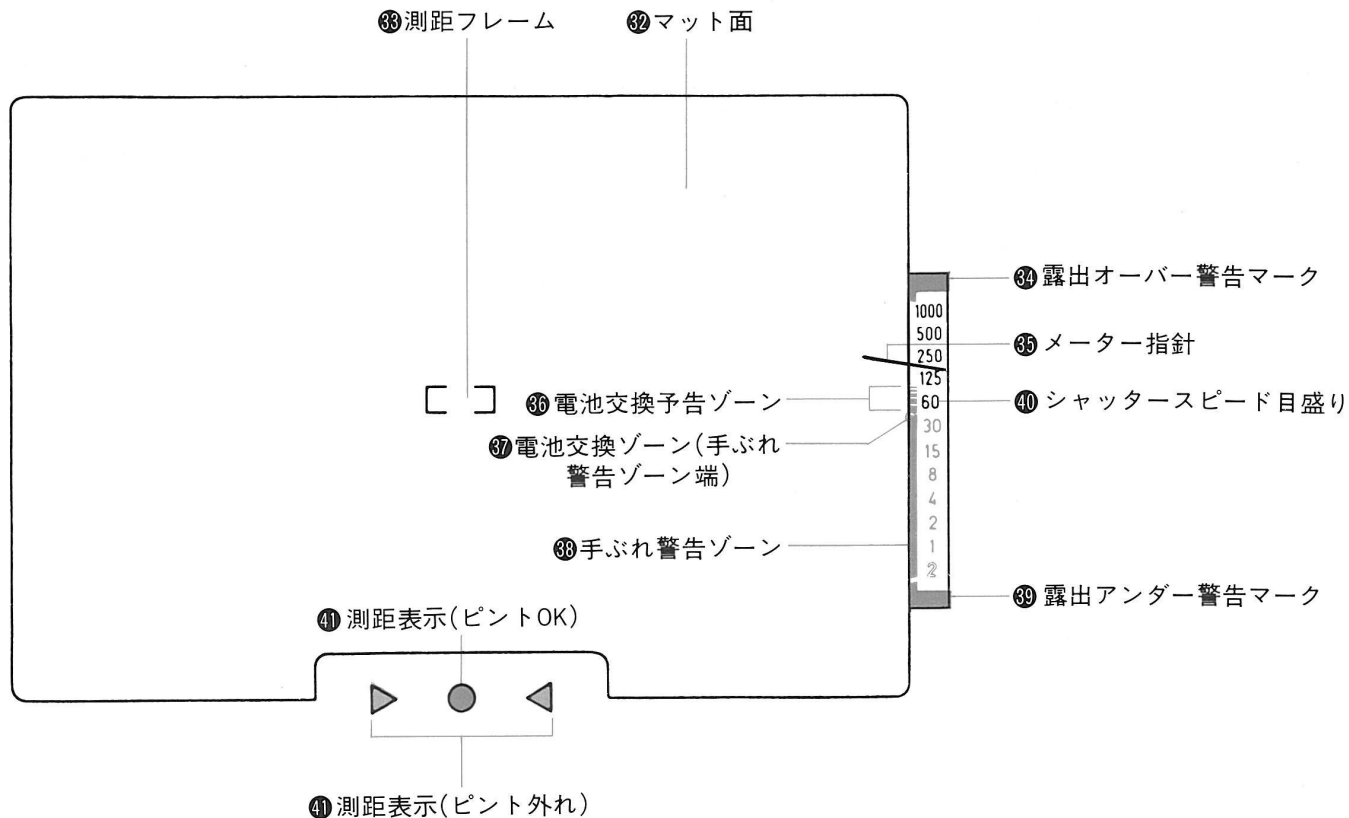


Cの写真は被写体の動きに合わせて、カメラを動かしながら $\frac{1}{60}$ 秒で撮ったものです。そのため被写体の背景がぶれ、一層流動感が表現されています。このようにシャッタースピードは動きを表現する役目をします。

↗●50mmより短いレンズの場合は、 $\frac{1}{60}$ 秒を一般的な手持ちの限界としてください。

シャッターダイヤル目盛りの中間は使用できません。

5. ファインダー情報



測距フレーム³³

この枠を被写体に合わせて、軽くシャッターボタンを押すと測距表示が出ます。なお、被写体は測距フレームの中央に入れるようにしてください。

マッド面³²

測距表示の使用できないときに使用します。距離リング²⁰を回して最もシャープに見えたときがピントの合ったときです。

測距表示⁴¹

中央の緑色が表示されればピントOK、赤矢印が表れたときは緑色が表れるまで矢印方向にレンズの距離リングを回してください。

露出オーバー警告マーク³⁴

写したいもの(被写体)が明る過ぎる場合は、メーター指針³⁵がメーター情報窓上部の露出オーバー警告マーク(赤マーク)³⁴に入ります。この場合は、レンズの絞りを閉じる方向(絞り値を大きくする)に回してください。

手ぶれ警告ゾーン³⁷

メーター指針がこの範囲に入ったときは、手ぶれ

が生じ易くなりますので、キヤノンスピードライトI66Aをはじめとした専用ストロボまたは三脚のご使用をおすすめします。

露出アンダー警告マーク³⁹

暗い場所ではメーター指針が露出アンダー警告マークを指すことがあります。その場合はメーター指針が適正露出範囲に振れるように、絞りを開ける方向に回してください。

電池交換予告ゾーン³⁶

電池チェックボタン¹⁵を押して、メーター指針³⁵がしま模様の中に入ったとき、交換用電池をご用意ください。

電池交換ゾーン³⁷ (手ぶれ警告ゾーン端)

手ぶれ警告ゾーンの末端が電池交換ゾーンとなります。電池交換ゾーンを指したときは、すぐ電池を交換してください。

〈クイックフォーカスの苦手な被写体と測距方法〉

このカメラのクイックフォーカス機構の測距精度は非常に高いものです。しかし苦手な被写体もあります。

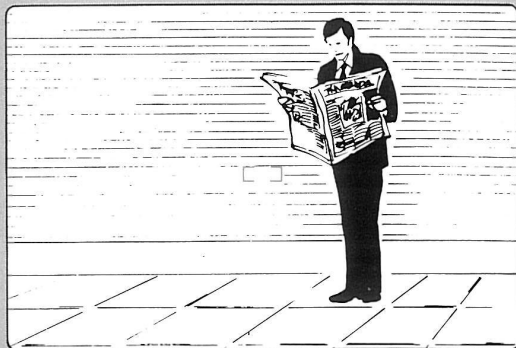
次のような被写体が測距フレーム[㊦]に入った場合は、測距表示が出ない(下記1~4)または誤表示となる(同5:メイン被写体の前後を測距するため)ことがあります。その時は、被写体とほぼ等しい距離にあるものにカメラを向けて測距し、再び被写体に向けて撮影するか、マット面によるピント合わせを行って下さい。

1. 縦線のない被写体 (ブラインド等) ……A
2. 明暗差の低い被写体 (一色の壁面, もやのかかった風景等) ……B
3. 非常に暗い場所の被写体 ……C
4. 極端に反射の強い被写体
5. 遠くと近くに共存する被写体 ……D

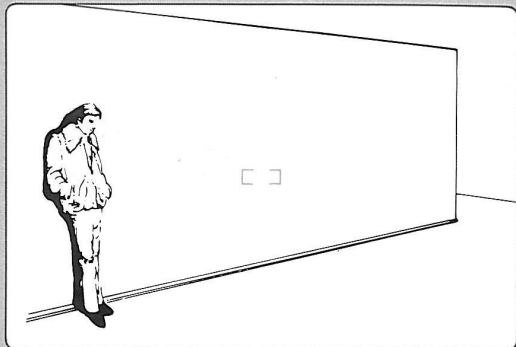
● 被写体が暗くなるにつれて、測距表示の出かたが緩やかになります。

P.56の質問箱の項もお読みください。

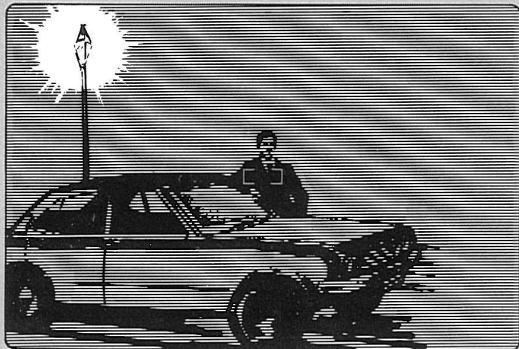
A.



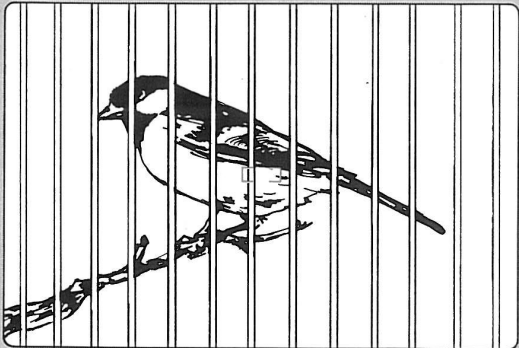
B.



C.



D.



〈クイックフォーカスの使用できない被写体〉

1. 5倍以上の拡大撮影(マクロフォトレンズ20mm F3.5は除く)および顕微鏡撮影
 2. レンズの開放F値がF 8～11以上になったとき
(絞り込み測光時等)
 3. 直線偏光フィルターを使用したとき(測光^{は可}も~~不可~~)
- 上記の撮影では、マット面^⑳によるピント合わせを行って下さい。

マット面による測距

ファインダーを覗きながら距離リング^㉑を回してもやがかったような感じが消えて、像がはっきり見えればピントの合った状態です。

望遠レンズ使用時、まれにファインダー内測距表示が変則点灯すること(P.55質問箱の項参照)がありますが、そのようなときもマット面使用のピント合わせをすると便利です。

AL-1の測光連動域

測光範囲

シャッタースピードと絞り値の組み合わせによる
露出量の値をEV値といいます。

このカメラのAE撮影範囲は、ASA100・50mmF1.4
のレンズでEV1(1秒F1.4)～EV18($\frac{1}{1000}$ 秒F16)です。

EV	TV	2	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{120}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{1000}$
0		1.4	1.2										
1		2	1.4	1.2									
2		2.8	2	1.4	1.2								
3		4	2.8	2	1.4	1.2							
4		5.6	4	2.8	2	1.4	1.2						
5		8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2					
6		11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2				
7		16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2			
8		22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2		
9		32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2	
10			32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4	1.2
11				32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2	1.4
12					32	22	16	11	8	5.6	4	2.8	2
13						32	22	16	11	8	5.6	4	2.8
14							32	22	16	11	8	5.6	4
15								32	22	16	11	8	5.6
16									32	22	16	11	8
17										32	22	16	11
18											32	22	16

6. 被写界深度

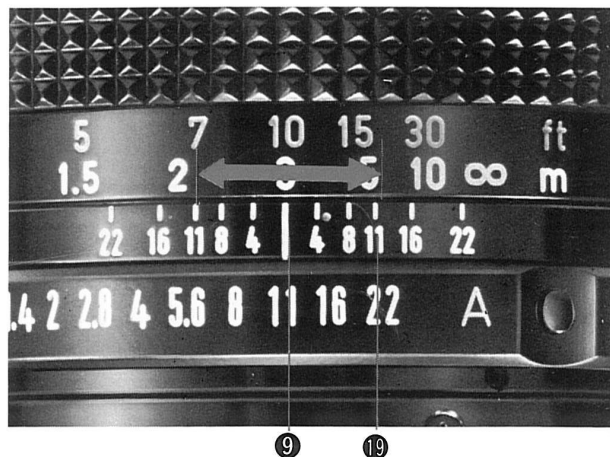
被写界深度のまとめ

「絞りを変えたときの写真効果」の項(P.31参照)ですでに述べたように、絞りを変えると被写界深度が変わりますが、被写界深度は次のような性質を持っています。

- 被写界深度は絞り値を大きくするほど深くなり、絞り値を小さくするほど浅くなります。
- 被写界深度は被写体が遠くなるほど深くなります。
- 被写界深度の範囲は、被写体を中心にして大体手前1，奥行2の割合になります。
- 被写界深度は同じ絞り値でも広角レンズは深く、望遠レンズは浅くなります。

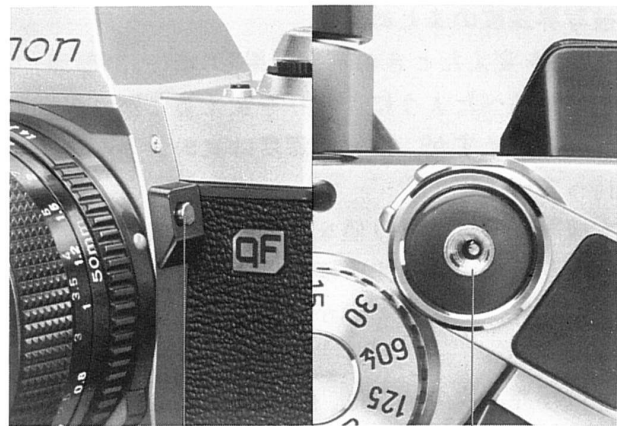
被写界深度の確認のしかた

レンズの指標⑨両側に並んでいる1対の数字が被写界深度目盛り⑩です。被写界深度目盛りは距離目盛りに関連づけて目盛ってありますので、深度範囲を距離目盛りから、読み取ることができます。たとえばある被写体を撮影したとき、絞り値がF11撮影距離が3mだったとします。そのとき、F11に対応する距離目盛りを読み取ると約2.2mと6m



ぐらいになります。(FD50mmF1.4の例)この範囲がはっきりと写る範囲です。その都度ピント合わせをする余裕のない、スナップ撮影はこの方法を利用します。

7. 露出の補正をしたいとき



測光方式は画面中央部を重点的に測光して、被写体周囲の明るさの影響を抑える、中央重点平均測光方式です。上の写真のような明るい青空や水面を背景にした人物を撮影した場合でも、背景の明るさにあまり左右されずに、人物が適正露出になります。しかし、極端に差があるときは露出の補正をしてください。室内で明るい窓を背景にして人物撮影をすると、人物が露出アンダーになってしまいます。そのような逆光撮影では、露出補正スイッチ⑰を押したまま、シャッターボタン⑤を

押してください。人物が適正露出になります。

露出補正スイッチを押すと、測光値に対してシャッタースピードが1.5段遅くなります。

フィルム感度の切り換えによる露出補正



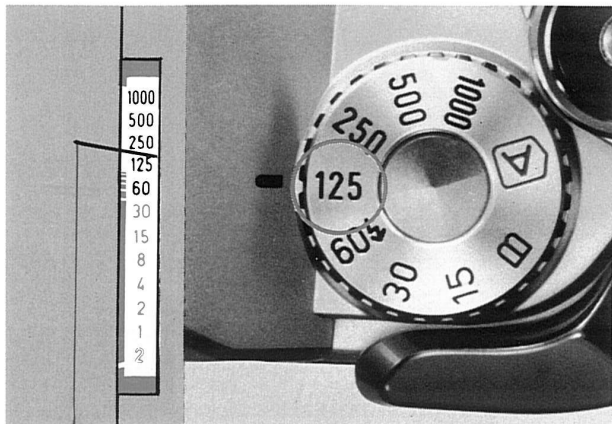
ASA感度目盛り数字が $\frac{1}{2}$ になると、露出量は2倍になりますので、フィルム感度目盛りの切り換えを利用すれば、露出の補正ができます。



例えば舞台写真で強烈なスポットライトを浴びてる人物の全身像を撮るときは、ASA400のフィルムをASA1600に合わせ直して使えば、絞り値を2目盛り大きくしたのと同じことになります。

撮影後は忘れずにASA感度を元に戻してください。露出の補正は勘と経験から決めてください。なお、撮影するときは決めた絞り値だけでなく、その前後0.5絞り程度も撮影しておくといでしょう。

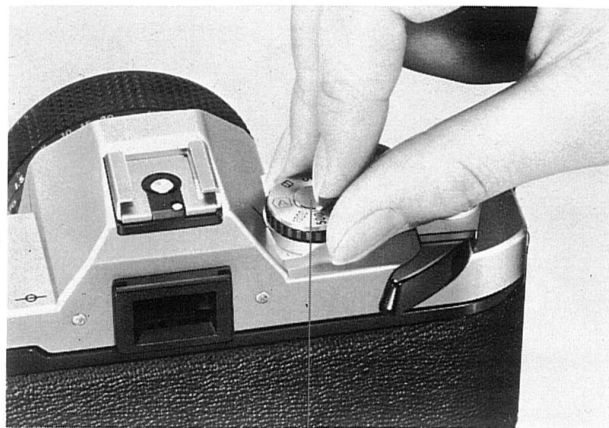
8. マニュアル撮影



⑤

マニュアル(手動)撮影は絞りとシャッタースピードの組み合わせを自分で決める方法です。動きの速い被写体で、例えばシャッタースピードを一定にして撮りたいようなときは、メーター指針⑤の指すシャッタースピード目盛りをシャッターダイヤルに移しかえて使用します。

なお、シャッターダイヤル目盛りの中間は使用できませんので、ファインダー内のメーター指針が目盛り中間を指しているときは、どちらかのシャッタースピードにセットし、その分絞りリングで



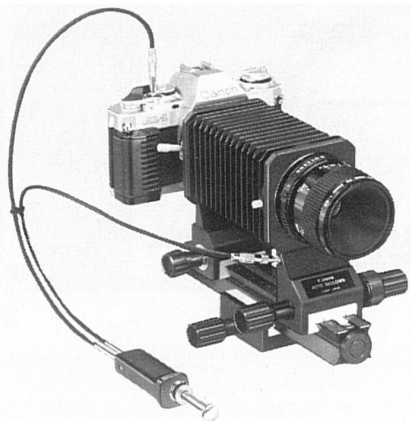
①

補正してください。

シャッタースピードをセットするときはオートロック解除ボタン①を押しながら回してください。

メーター指針はマニュアルにセットしても振れますが、シャッターダイヤルと連動しては振れませんので、マニュアル撮影時のシャッタースピードのセットは必ずシャッターダイヤル目盛りで行ってください。

9. 絞り込み撮影



このカメラはFDレンズとの組み合わせによる開放測光AE方式のカメラですが、FLレンズを使用した場合や、オートベローズ、エクステンションチューブなどの接写関係アクセサリーを使用した場合には、絞り込みAE撮影となります。

F8～11以上の絞り込み撮影では測距表示は使用できませんので、直接、像のぼけ具合を確かめながらピント合わせをしてください。

FLレンズの絞り込み撮影



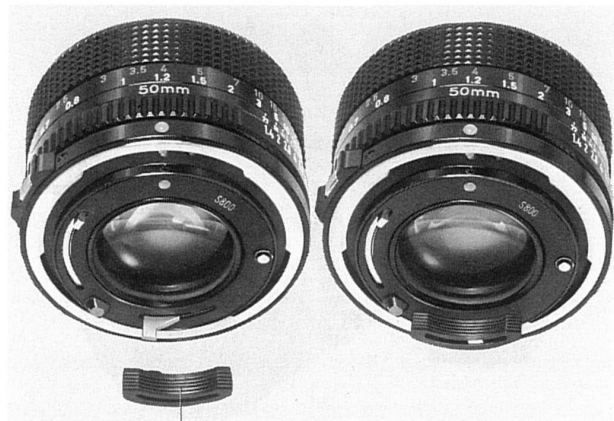
FLレンズの手動絞りリングをM位置にセットします。ファインダーをのぞいてピントを合わせた後で、実際に使用する絞り値にセットして露出を決めます。

取り付けられない例外レンズ

FL19mmF3.5, FL35mmF2.5, FL50mmF1.8,
FL58mmF1.2

10. フィルム位置マーク

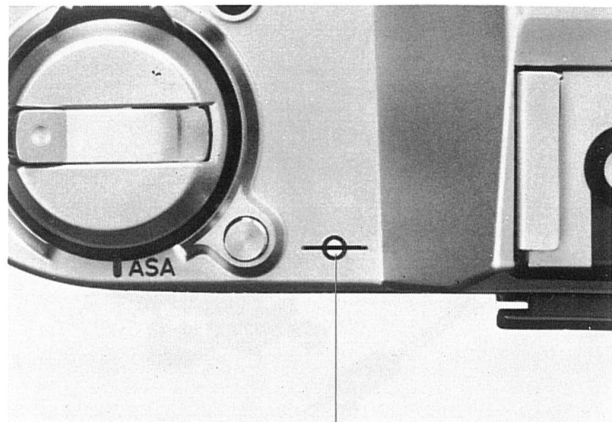
FDレンズの絞りロック撮影



絞りレバーストッパー

レンズとボディの間に絞り連動ピンのない、中間チューブなどをはさんで撮影するとき、手動絞りで撮影しなければなりませんので、次のようにしてください。

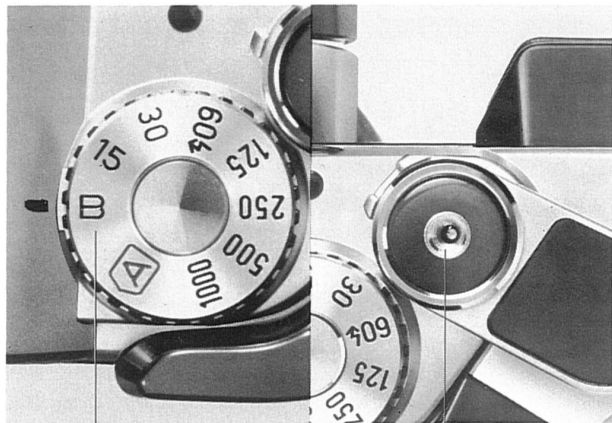
レンズ後部の自動絞りレバーに別売の絞りレバーストッパーを取り付け固定します。この状態でエクステンションチューブM等に取り付け、絞りリング⑩を回せば絞り羽根が開閉します。



フィルム位置マーク⑪はカメラ内のフィルムの位置を示したものです。レンズの距離目盛りはこのマークから測った被写体までの距離です。フィルム位置マークは一般撮影では使用しませんが、接写・拡大撮影のときに被写体までの距離を実測する場合に役立ちます。

絞りレバーストッパーを取り付けたレンズはカメラ、オートベローズ、ベローズFL等の自動絞り連動機構を持つものに、直接取り付けないでください。

11. 長時間露出とB(バルブ)



②

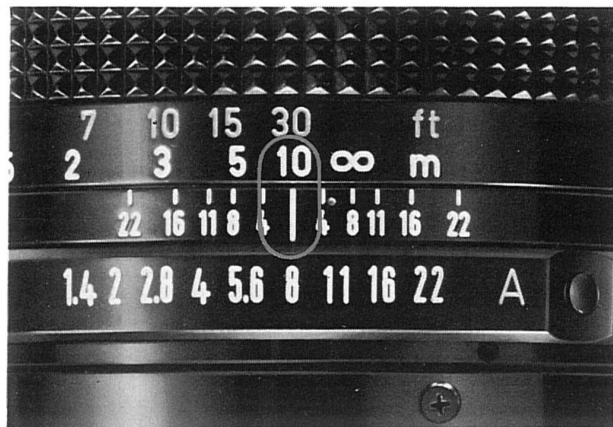
⑤

このカメラでは2秒を超えるような暗い場所では、シャッターダイヤル②目盛りをBにセットして撮影してください。シャッターボタン⑤を押している間は、シャッターが開いたままになります。バルブ撮影では三脚とロック付ケーブルリリースを併用してください。

バルブ撮影は電池を継続して使用するため、電池の消耗が非常に激しくなり、撮影途中で容量がなくなることもありますので、電池は容量の十分にある新品に換えてください。

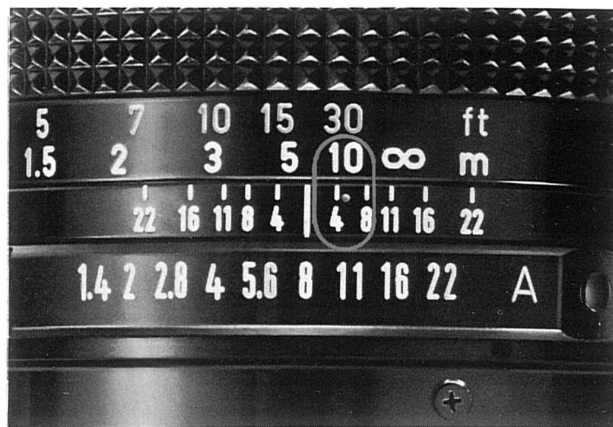


12. 赤外写真と赤外マーク



赤外マークは、白黒赤外フィルムを使用するときのマークです。赤外フィルム撮影では通常の撮影とピント位置が異なってきますので次のようにしてください。

- 1.ピントを合わせます。
- 2.その結果が10mならば、レンズの距離目盛りの10を赤外マーク位置にずらします。
- 3.これで撮影します。なお、白黒赤外フィルム撮影のときは、赤フィルターを併用します。



■レンズの赤外マークは800n.m.の波長を基準に目盛ってありますが、市販の白黒赤外フィルムの波長は種類によって異なりますので(750～830n.m.)、撮影の際は補正マークを中心にして何枚か撮影することをお勧めします。

■カラー赤外フィルムについては、フィルム使用説明書に従ってください。



13. 主な付属品

専用ストロボ



011A



133A



155A



166A



177A



188A



199A

主要性能表

	011A	133A	155A	166A	177A
ガイドNo.(m, ASA100)	14	16	17	20	25(16)
照射範囲レンズ(mm)	35	35	35	35	35(28)
発光間隔(秒)	9秒以下	9秒以下	7秒以下	7秒以下	8秒以下
発光回数	約150回以上	約100回以上	約300回以上	約250回以上	約200回以上
調光絞り選択スイッチ	F4	F4	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動
調光距離範囲(m)	0.5~7	0.5~8	0.5~6	0.5~7	0.5~9(0.5~5.7)
使用フィルム感度(ASA)	100, 400	80~400	25~800	25~800	25~800
電源	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd
備考					()内はワイドアダプター 使用時

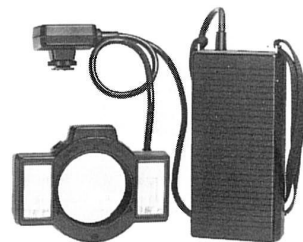
■データはAM-3型新品電池使用時です。 ■発光間隔は新品電池にて発光後パイロットランプが点灯するまでの時間です。 ■発行回数は30秒間隔です。



533G



577G



マクロライトML-1

キヤノンマクロライトML-1

本格的なマクロ撮影になると、照明は欠かせないものとなりますが、マクロ撮影ではその露出決定に勘と経験が必要となります。キヤノンマクロライトML-1はマクロ専用ストロボで、初心者でも簡単に本格的なマクロ撮影を楽しむことができます。特に動きのある昆虫、小動物などのマクロ撮影には威力を発揮します。是非あなたの創作活動にご活用ください。

188A	199A	533G	577G
25(16)	30(16)	36(22, 18, 51)	48(28, 24, 63)
35(28)	35(24)	35(24, 20, 100)	35(24, 20, 100)
8秒以下	10秒以下	10秒以下	6秒以下
約200回以上	約100回以上	約120回以上	約250回以上
F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 11手動	F2.8, 5.6, 11	F2.8, 5.6, 11手動
0.5~9(0.5~5.6)	0.5~10.6(0.5~6.3)	1~12.8 (0.5~7.8) 0.5~6.4 (2.5~18.2)	1~17 (0.5~10) 0.5~8.5 (2.5~22.5)
25~800	25~800	25~800	25~800
AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd 積層パック トランジスタパック	Ni-Cd 積層パック トランジスタパック
()内はワイドアダプター 使用時	()内はワイドアダプター 使用時, バウンス撮影可, スローシンク可, その他	()内はアダプター使用時 バウンス撮影, スローシン ク可, その他	()内はアダプター使用時 バウンス撮影, スローシン ク可, その他

キヤノンパワーワインダーA2



フード



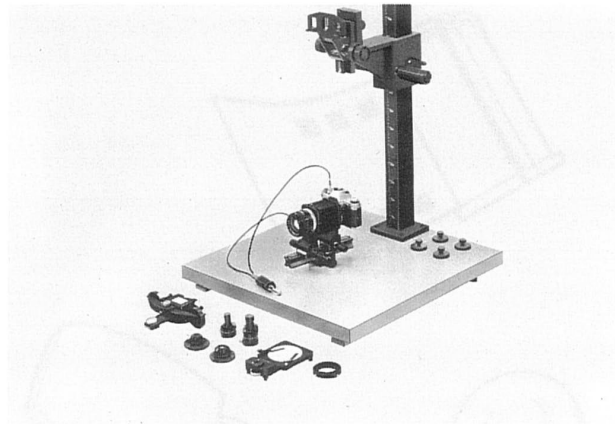
キヤノンパワーワインダーA2およびAはキヤノンAL-1の自動巻き上げ装置で、すべてのキヤノンAL-1に無調整で取り付け使用可能です。

シャッターボタンを押してシャッターが切れると自動的に巻き上げられます。秒間約2コマまでの連続及び1コマ撮影が指先で自由にコントロールできます。(A2のメインスイッチによる1コマ撮影およびリモコンソケット使用は不可) 1コマ撮影の場合は、全シャッタースピードが使用でき、連続撮影の場合には $\frac{1}{60}$ 秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までが使用できます。

フードは有害光線をカットしますので、ぜひ使用してください。

フードの取り付けは、レンズ先端のフード取り付けバヨネット²⁶にはめ込んで回すだけです。はずすときは逆回しにします。なお特殊なものを除いて、フードはギャゼットバックなどへの収納を考慮して、逆向きにかぶせてキャップをすることができるようになっています。

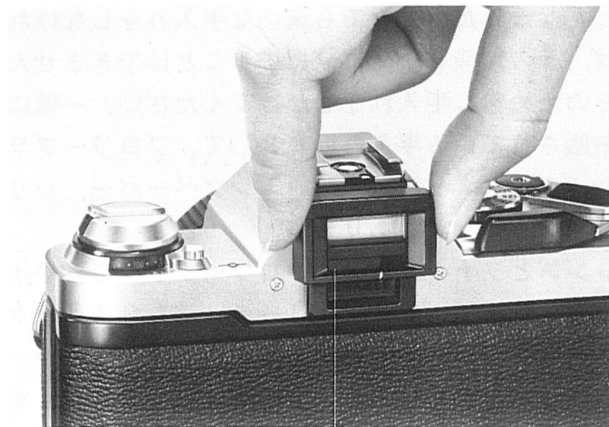
接写・拡大撮影システム



キヤノンオートペローズ，コピースタンド5を中心とするシステムです。

簡単なクローズアップ撮影から複写，拡大撮影までできます。

視度補正レンズ



②1

視度補正レンズを取り付ければ，近視遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが，交換用視度補正レンズとして10種あります。

-4， -3， -2， -0.5， 0， +0.5， +1， +1.5， +2， +3(ジオプター)

視度補正レンズは実際にカメラに取り付けて覗き，確かめてから選んでください。

視度補正レンズはファインダー接眼部②1の溝に上から差し込んで取り付けます。

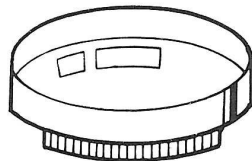
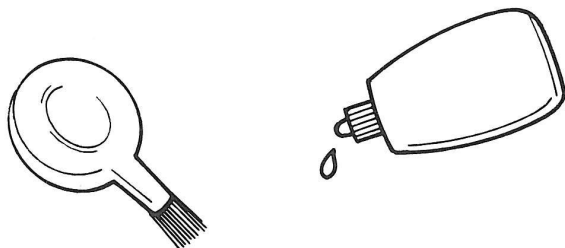
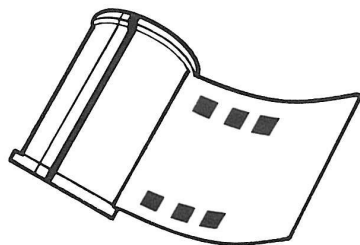
★手入れと保管

手入れ

どんな優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮することはできません。そのため常に手入れを心がけてください。一般に市販されている手入れ用具として、ブローブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロスなどがあります。

レンズとファインダーはブローブラシで砂やホコリを吹き払った後、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。海辺などで使用したカメラは塩分がついていますので特によく拭いてください。

カメラのミラーボックス内の清掃はブローブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、キヤノンサービスステーションにお持ちください。フィルム室内には、フィルムカスなどが付きやすいため、常にゴミを吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにすりキズをつける原因になります。レール面や圧着板をふく場合はクリーナー液とクリーニングペーパーを使用してください。その際、シャッター幕には手をふれないでください。



★アフターサービスについて

保管

カメラケースをはずし、電池類を抜き取って、湿気やほこりのないところに保管してください。

またカメラは長期間使用しないでおくとカビや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所はさけてください。

- ①車のトランクやリアウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるためさけてください。
- ②実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるためさけてください。同様にタンスの中などもさけてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、重要な撮影の前には、各部の作動をご自身でチェックしてからご使用ください。

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
- 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。

★修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

★質問箱

Q. 誤ってフィルムを巻き戻さないで、裏蓋を開けたらどうなりますか。

A. スグノ 裏蓋を開けてください。そして巻き戻し後現像に出してください。状況によって異なりますが、結構ダメにならない部分があるものです。なお撮り直しのできるときは、撮り直すことをおすすめします。

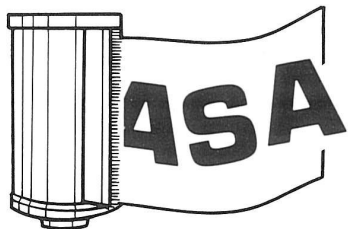
Q. カメラが動かなくなったら、どうしたらよいでしょう。

A. 動かなくなったら、次のことを確かめてください。

1. 電池が消耗していないか。
2. フィルムが巻上げられているかどうか。
3. シャッターボタンロックレバーが(L)になっていないかどうか。
4. フィルムは終わっていないか。
これでも動かないときは、故障と思われます。

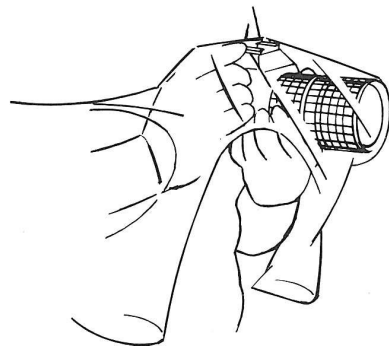
Q. 電池の寿命はどれ位ですか。

A. 通常の使い方では36枚撮りフィルム30本程度です。なお長時間使用しないときは電池は抜き取って保管してください。入れたままにすると、電池漏液を起こし故障の原因となることがあります。



Q. フィルム外箱のASA100,あるいはISO100/21°というのは何ですか。

A. フィルム感度目盛りです。フィルム感度目盛りは光に感じる度合を数字で表したものです。数字が大きくなるほど敏感に感じ、暗い所でも写せます。なおASAはアメリカ規格協会(American Standards Association)の略で、ISOは国際標準化機構(International Organization for Standardization)の頭文字をとったものです。



Q. カメラは多少の雨や雪の中で使用しても大丈夫なものでしょうか。

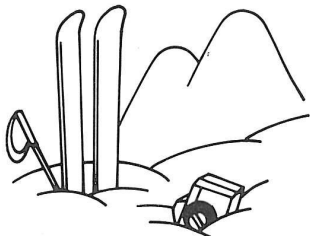
A. カメラは精密機械ですので避けた方が無難です。特に電気回路は水を嫌いますので、そのような中での使用は避けたいものです。しかし止むを得ないときは市販のカメラ防水カバーや撮影者も一緒にかぶる、カメラマンレインコートを利用するとよいでしょう。なお防水カバーはキヤノンCPEでも販売しています。

Q. 寒い所で撮影するときは、どんなことに注意をすれば良いでしょうか。(例えばスキー場など)

A. 27ページをご覧ください。

なお寒い所で使用したカメラを暖かい室内に持ち込むと、急激な温度差によってカメラに水滴が付きますので、ご注意ください。

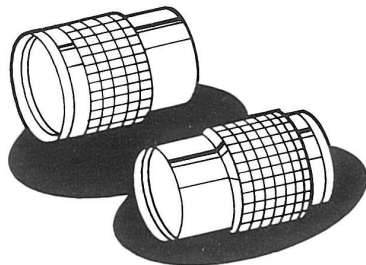
戸外でビニール袋にカメラを密封したのち室内に入れ、30分位室内温度に慣らしてから取り出すのも1つの方法です。



Q. ASA100のネガカラーフィルムをASA400にセットして撮影してしまいました。大事なフィルムですので何とかならないでしょうか。

A. 写真は決められたフィルム感度をカメラにセットすることによって、最適な状態になるようになっています。従って、感度目盛りは必ず指定の値にセットしてください。ご質問の件は露出アンダーになります。ASA400

を100にセットした場合は、露出オーバーになります。それを少しでも救うために、フィルムを現像に出す際は、必ずその旨申し添えてください。



Q. 交換レンズが欲しいのですが、初めて買うレンズとしては何を比べようでしょうか。

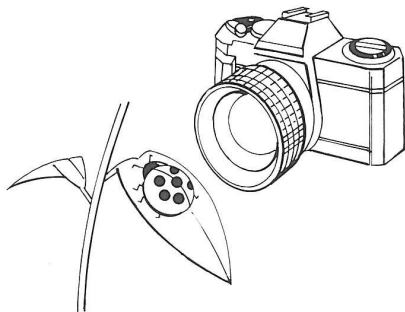
A. 別冊の「もう僕は交換レンズの世界に夢中だ」をご覧ください。

Q. キヤノンAL-1を使用中、3つの測距表示が不規則に点灯することや、左右端の測距表示が交互に点灯することが時々あります。なぜでしょうか。

A. これは狙った被写体が、ファインダー内の測距フレームから外れるときなどに見られる現象です。例えば望遠レンズを手持ち撮影で使用すると、測距フレームに狙った被写体を入れたまま、カメラを保持することが難しくなりフレームから外れるたびに、他の部分を測距してしまい3つのマークが不規則に点灯するのです。またレンズは望遠レンズになればなるほど、

遠距離側の距離目盛り間隔が狭くなり、わずかの回転でピントが大幅にずれてしまい、緑のOKマークがつかずに赤矢印がつく、後者のような現象になるのです。従って望遠レンズは三脚を使用し、距離リングをゆっくり回し緑色のOKマークの安定を待って撮影してください。なお後者の例は測距可能限界の明るさのときにも生じることがあります。

Q. 花や昆虫を手軽に大写しをする方法はないのでしょうか。



A. レンズ前面にクローズアップレンズを付けるかレンズとボデーの間にエクステンションチューブを付ければ簡単に写せます。本格的なマクロ撮影をする方はキヤノンマクロレンズをおすすめします。マクロレンズには50mm, 100mm, 200mmの3本があります。なおこのマクロレンズは一般の50mm, 100mm, 200mmレンズとして使用することもできます。

Q. ガールフレンドを撮ったのですが、肝心の人物にピントが合わずに背景にピントが合っています。このようなことが時々あります。故障でしょうか。

A. 故障ではありません。多分ピント合わせのとき、測距フレームに顔と建物が入っていたのではないのでしょうか (P. 36遠くと近くに共存する被写体に該当、この場合は明暗差の高いものに対して、測距表示がでる性質があり、建物にピントが合ったと思われる) このようなときは測距フレーム一杯に狙った被写体を捉えるようにして測距してください。測距のときだけカメラを縦、横、斜めなどと変えるのも方法です。ご質問のようなときはカメラをわずかに傾けて、胸の辺で測距すればピントの合った写真が得られたと思います。なお測距するときは明暗差の高い部分(洋服の模様等)でピント合わせをしてください。

どうしても被写体で測距できないときは、被写体とほぼ等しい距離にあるもので測距して撮影するか、マット面による測距をしてください。

Q. キヤノンAL-1にはパワーワインダーA2、Aが使えますが、どんなときに使うのですか。

A. フィルムが常に巻上げられた状態になっていますので、動きのある被写体に便利です。なお一般撮影において連写をし、その中から最も良い写真を1枚選び出すという使い方もあります。A2はメインスイッチの切り換えによる1コマ撮影およびリモコン撮影はできません。

★主要性能一覧表

型式：電子制御式35mmフォーカルプレーンシャッター一眼レフAEカメラ クイックフォーカス機構内蔵

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：FDレンズ群(開放測光AE撮影)
FLレンズ群(絞り込みAE撮影)

標準レンズ：FD50mmF1.2, FD50mmF1.4, FD50mmF1.8

レンズマウント：FD, FL, Rレンズの取り付け可能

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野率：上下92%, 左右93%

標準視度：-1.0ジオプター

倍率：0.87倍(50mmレンズ付き, ∞状態)

ファインダー情報：測距フレーム, 測距表示, シャッタースピード目盛, 露出不適正警告マーク, バッテリーチェックマーク, 手ぶれ警告マーク

測距表示：3点LED表示

測距輝度範囲：EV5~EV18(ASA100)

測光方式：SPC使用の中央重点平均測光

AE機構：絞り優先AE方式

測光範囲：ASA100, EV1(F1.4・1秒)~EV18(F16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)

使用フィルム感度：ASA25~1600

露出補正：押し込み式スイッチにより+1.5段

シャッター：4軸横走り布幕フォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード：オート： $\frac{1}{1000}$ 秒~2秒 完全電子制御
マニュアル： $\frac{1}{1000}$, $\frac{1}{500}$, $\frac{1}{250}$, $\frac{1}{125}$, $\frac{1}{60}$, $\frac{1}{30}$, $\frac{1}{15}$, B

セルフタイマー：電子制御式, 時限約10秒, セルフタイマー作動中はLEDが点滅

シンクロフラッシュ：X接点, $\frac{1}{60}$ 秒, アクセサリーシュー部に直結接点あり

フラッシュオート：専用スピードライト使用, 充電完了信号によりシャッタースピードは自動セット, 絞りは調光絞り値をレンズに手動セット

電源：単4型アルカリマンガン電池1.5V 2本
(JIS LR-03) パームグリップ部に収納

電池寿命：36枚撮りフィルム使用, 常温30本以上, 低温-10℃で1本以上

バッテリーチェック：バッテリーチェックボタンの押し込みによる

裏蓋：巻き戻しクランクの引き上げにより開放
フィルム巻き上げ：巻き上げ角120° 予備角30° 小刻み巻き上げ可能, パワーワインダーによる自動巻き上げ可能

フィルム枚数計：自動復元順算式

フィルムの巻き戻し：巻き戻しボタンおよび上部クランクによる

大きさ・重量：142.1×86.5×47.6mm, 490g(ボディのみ)

※都合により外観仕様の一部を変更することがあります。

各部名称

① ファインダー接眼部

② ASA感度表示窓

③ 裏蓋

④ ワインダー接点

⑤ レンズ取り外しボタン

⑥ フード取り付けバヨネット

⑦ 巻き戻しボタン

⑧ ワインダーガイドホール

⑨ ワインダーソケットカバー

⑩ 電池室蓋

⑪ 三脚ねじ穴

⑫ マット面

⑬ 測距フレーム

⑭ 露出オーバー警告マーク

⑮ メーター指針

⑯ 電池交換予告ゾーン

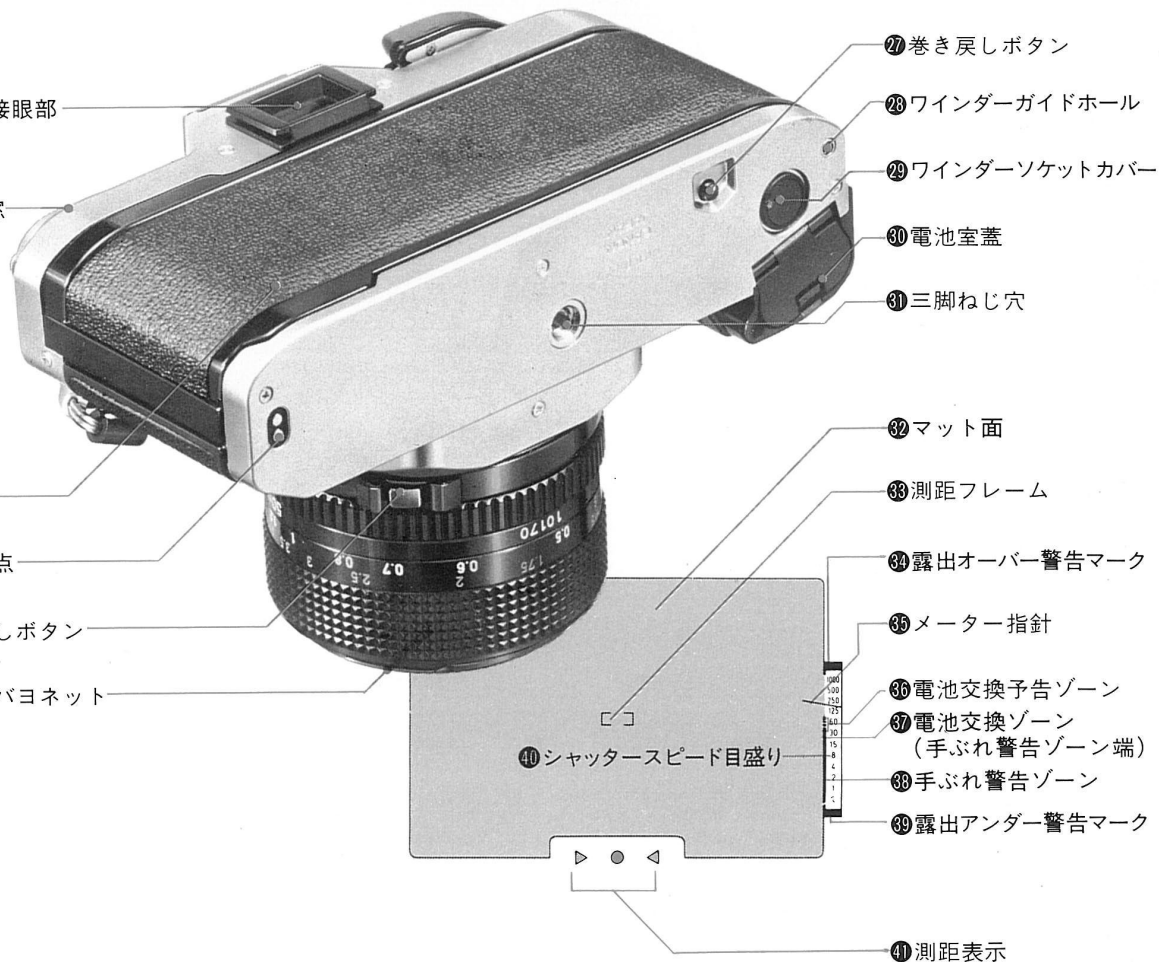
⑰ 電池交換ゾーン
(手ぶれ警告ゾーン端)

⑱ 手ぶれ警告ゾーン

⑲ 露出アンダー警告マーク

⑳ シャッタースピード目盛り

㉑ 測距表示







キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田 3-11-28
カメラ相談室 (03) 455-9353

サービスステーション

札幌	幌 (060) 札幌市中央区北三条西 4-1 (第一生命ビル 4階) (011) 231-1313	
青森	森 (030) 青森市堤町 1-6-3 (山一ビル) (0177) 75-1666	
盛岡	岡 (020-01) 盛岡市上堂 3-2-15 (工藤ビル) (0196) 46-8710	
仙台	台 (980) 仙台市一番町 1-1-30 (やまと生命仙台ビル 6階) (0222) 66-4151-7	
郡山	山 (963) 福島県郡山市開成 2-38-13 (0249) 23-5618	
新潟	潟 (950) 新潟市東大通 1-4-1 (マルタケビル 7階) (0252) 43-2111	
東京	京 (104) 東京都中央区銀座 5-9-9 (03) 573-7834	
	・ (160) 新宿区西新宿 1-24-1 (西新宿第一ビル) (03) 348-4721	
	・ (192) 八王子市八幡町 11-2 (八王子繊維貿易館) (0426) 25-7511	
横浜	浜 (221) 横浜市神奈川区鶴屋町 3-30-4 (安田生命横浜西口ビル) (045) 312-0211	
千葉	葉 (280) 千葉市旭町 77-6 (0472) 24-1651	
大宮	宮 (330) 大宮市桜木町 4-218 (共栄ビル 6階) (0486) 41-9122	
静岡	岡 (420) 静岡市鷹匠 2-7-2 (静米会館 1階) (0542) 55-2241	
名古屋	屋 (450) 名古屋市中村区名駅 3-21-7 (三交ビル) (052) 563-6822	
大阪	阪 (530) 大阪市北区梅田 1-8-17 (第一生命ビル) (06) 341-9335	
東京都	都 (604) 東京都中央区御池通間之町東入ル (東邦生命ビル 5階) (075) 241-0216	
高松	沢 (920) 金沢市尾張町 1-11-14 (住友生命ビル 2階) (0762) 32-1711	
岡山	松 (760) 高松市番町 3-3-17 (第一謀機ビル 1階) (0878) 33-2933	
岡山	山 (700) 岡山市中山下 1-9-40 (新岡山ビル 5階) (0862) 22-8228	
広島	島 (730) 広島市中区小町 2-30 (第二有楽ビル 4階) (0822) 44-4615	
米子	子 (683) 鳥取県米子市加茂町 2-8-2 (前田ビル) (0859) 34-6731	
福岡	岡 (812) 福岡市博多区博多駅前 4-20-23 (セントラルビル 1階) (092) 411-4172	
分	分 (870) 大分市長浜町 2-12-4 (シンサントビル) (0975) 37-4118	
鹿児島	島 (892) 鹿児島市山之口町 3-22 (住友生命鹿児島ビル) (0992) 24-3141	
沖縄	總 (900) 那覇市泊 1-2-2 (0988) 67-2106	
サービスセンター		
東京	京 (108) 東京都港区港南 2-13-29 (03) 450-2731	
大阪	阪 (540) 大阪市東区森の宮中央 2-10-9 (06) 941-1076	

キヤノンAL-1の機能を十分にご活用いただくためには、当社が設計、製造した交換レンズ及びその他の付属品のご使用をおすすめします。